



2025 7.16 - 9.28 WED SUN
会期中に一部
展示替えがあります。
前期展示：7月16日(水)～8月24日(日)
後期展示：8月26日(火)～9月28日(日)

■図録の掲載順、番号とは異なります。
■図録No.3、24、26、41、57、58は会場都合により当館では展示されません。
■所蔵先の表記は右の通りです。 B：ベルナル・ビュフェ美術館 S：静岡新聞社

佐川美術館
SAGAWA ART MUSEUM

No.	展示	タイトル (和)	タイトル (仏)	制作年	技法・素材	サイズ (cm / h×w)	所蔵
1 画家ビュフェ、そのはじまり							
1		トマトのある静物	Nature morte aux tomates	1945	油彩、カンヴァス	60×73	B
2		自画像	Autoportrait	1946	油彩、カンヴァス	83×89	S
3		村の通り	Rue de village	1946	油彩、カンヴァス	78×121	S
4		ケノアの風景	Paysage du Quesnoy	1947	油彩、カンヴァス	114×146	B
5		風景	Paysage breton	1947	油彩、カンヴァス	113×170	S
6		肘をつく男	Homme accoudé	1947	油彩、カンヴァス	114.5×160	S
2 ビュフェの初期絵画——室内／静物							
7		アトリエ	L'atelier	1947	油彩、カンヴァス	149×200	B
8		キリストの十字架からの降下	La Déposition de Croix	1948	油彩、カンヴァス	180×270	B
9		化粧する女	Femme à sa toilette	1947	油彩、カンヴァス	148×89	S
10	前期	部屋	La chambre	1947	油彩、カンヴァス	142×194	B
11	後期	裸の男と暖炉	Homme nu à la cheminée	1947	油彩、カンヴァス	160×178	S
12		髪をとかす女	Femme se coiffant	1947	油彩、カンヴァス	209×109	S
13		肉屋の少年	Le garçon boucher	1949	油彩、カンヴァス	200×300	B
14		画家とモデル	Le peintre et son modèle	1948	油彩、カンヴァス	200×94	B
15		後ろ姿の裸婦	Femme nue de dos	1948	油彩、カンヴァス	200×95	B
16		二羽の鶏	Les deux poulets	1948	油彩、カンヴァス	119×123	S
17	前期	吊るされた鶏のある静物	Nature morte au poulet pendu	1948	油彩、カンヴァス	127×63.5	S
18	後期	牛のアバラ肉	Quartier de bœuf	1955	油彩、カンヴァス	97×195	S
19		椅子	La chaise	1950	油彩、カンヴァス	146×97	S
20		水浴者	La baigneurs	1956	油彩、カンヴァス	130×97	S
21		バレーボール	La volley-ball	1956	油彩、カンヴァス	155×350	B
22		二つのテーブル	Deux tables	1950	油彩、カンヴァス	97×146	S
3 サーカス／闘牛／カルメン							
23		ピエロの顔	Tête de clown	1961	油彩、カンヴァス	100×81	S
24		サーカス：トロンボーンとピエロ	Le cirque : Clown au trombone	1955	油彩、カンヴァス	230×150	S
25		青い闘牛士	Torero bleu	1960	油彩、カンヴァス	230×195	B
26	前期	ピカドール	Le picador	1962	油彩、カンヴァス	200×230	B
27	後期	二人の闘牛士の顔	Deux têtes de toreros	1963	油彩、カンヴァス	97×146	S
28	後期	コーヒーボットを頭にのせたピエロ	Clown à la cafetière	1995	油彩、カンヴァス	116×81	S
29		カルメン	Carmen	1962	油彩、カンヴァス	146×97	B
4 画家とその家族、愛する人たち							
30		ある街角	L'enterrement	1949	油彩、カンヴァス	130×89	S
31		父と息子	Père et fils	1945	油彩、カンヴァス	112×69	B
32		自画像	Autoportrait	1949	油彩、カンヴァス	98×57	B
33		岡野喜一郎の肖像	Kichiro Okano	1973	油彩、カンヴァス	130×97	S
34		ブランシュの肖像	Portrait de Blanche	1959	油彩、カンヴァス	130×97	B
35		夜会服のアナベル	Annabel en robe du soir	1959	油彩、カンヴァス	195×100	B
36		自画像	Autoportrait	1958	油彩、カンヴァス	116×89	B
37		自画像	Autoportrait	1981	油彩、カンヴァス	146×114	S
38		『人間の声』（全28葉）より 前後期各6葉	La Voix Humaine	1957	ドライポイント	45.5×44.5	S

No.	展示	タイトル（和）	タイトル（仏）	制作年	技法・素材	サイズ（cm / h×w）	所蔵
5 エコルシェ／狂女——噴き出す激情							
39		皮を剥がれた人体：正面	Les Ecorchés : Ecorché de face	1964	油彩、カンヴァス	146×114	B
40		皮を剥がれた人体：頭部	Les Ecorchés : Tête d'écorché	1964	油彩、カンヴァス	146×114	S
41		狂女：狂女	Les Folles : Folle	1970	油彩、カンヴァス	55×46	B
42		狂女：死者の顔をした二人	Les Folles : Couple à la tête de mort	1970	油彩、カンヴァス	146×114	S
43		狂女：二人の狂女	Les Folles : Les deux folles	1970	油彩、カンヴァス	97×130	S
6 異国の街と文化——旅するビュフェ							
44		ニューヨーク：34丁目	New York : 34 ^{ème} rue	1958	油彩、カンヴァス	150×150	S
45		ニューヨーク：マンハッタン	New York : Manhattan	1958	油彩、カンヴァス	150×325	B
46-1		『日本の旅』より 東京の高速道路	Les Autoroutes, Tokyo	1981	リトグラフ	47×33	B(寄託)
46-2		『日本の旅』より 富士山と汽車	Le mont Fuji et le Train	1981	リトグラフ	47×66	B(寄託)
46-3		『日本の旅』より 奈良の鹿	Les biches à Nara	1981	リトグラフ	47×66	B(寄託)
47		相撲：睨み合い	Sumo : Niramiai	1987	油彩、カンヴァス	243×200	B
48		日本：日本女性	Le Japon : Japonaises	1980	油彩、カンヴァス	130×89	S
49	前期	シエナ、市庁舎	Sienne, le Palais Public	1991	油彩、カンヴァス	130×162	S
50	後期	ミコノスの通り	Rue à Mykonos	1992	油彩、カンヴァス	130×162	S
51		サンクトペテルブルク、エルミタージュ	Saint-Pétersbourg, l'Ermitage	1992	油彩、カンヴァス	114×195	S
7 地獄／虚構／死——文学からの主題							
52-1		『ダンテ地獄篇』より ヴァルジリオ	Virgile	1976	ドライポイント	62.5×47.3	B
52-2		『ダンテ地獄篇』より ダンテ	Dante	1976	ドライポイント	62.4×47.2	B
52-3		『ダンテ地獄篇』より あざ笑う餓鬼	Damné ricanant	1976	ドライポイント	38×28.7	B
52-4		『ダンテ地獄篇』より ハルピュイア	La Harpie	1976	ドライポイント	49×33.5	B
52-5		『ダンテ地獄篇』より 歯の抜けた顔	Figure édentée	1976	ドライポイント	44.8×36.5	B
52-6		『ダンテ地獄篇』より われわれを見つめるまなざし：ああ悲しいかな！	Cette tête nous regardait, et la bouche disait : Hélas !	1976	ドライポイント	46.3×49.2	B
52-7		『ダンテ地獄篇』より 二人の餓鬼ども	Deux damnés	1976	ドライポイント	55.2×43.8	B
52-8		『ダンテ地獄篇』より アンジェロ	Angelo	1976	ドライポイント	43.9×37.4	B
52-9		『ダンテ地獄篇』より 逆になった首	Tête renversée	1976	ドライポイント	44.8×37.7	B
52-10		『ダンテ地獄篇』より 魔王	Lucifer	1976	ドライポイント	36.8×44.3	B
52-11		『ダンテ地獄篇』より 氷づけにされた頭	La tête dans la glace	1976	ドライポイント	26×38.6	B
53		死よ万歳	Vive les morts	1998	油彩、カンヴァス	130×162	B
54		死 16	La mort 16	1999	油彩、カンヴァス	195×114	B
8 新しいモチーフを求めて							
55		とんぼ	Libellule	1959	油彩、カンヴァス	54×65	S
56		蝶	Papillon	1959	油彩、カンヴァス	73×80	S
57		鳥	Oiseau	1963	油彩、カンヴァス	15×22	S
58		コガネムシ	Scarabée	1963	油彩、カンヴァス	22×16	S
59		小さいミミズク	Petit duc	1963	油彩、カンヴァス	100×65	S
60		ロールス・ロイス	La Rolls	1956	油彩、カンヴァス	114×146	B
61	前期	海	La mer	1966	油彩、カンヴァス	73×100	B
62	後期	サント＝ヴィクトワール山	La montagne Sainte-Victoire	1963	油彩、カンヴァス	89×130	S
63		モンマルトル：モンマルトルのサクレ＝クール教会堂	Montmartre : Le Sacré-Cœur de Montmartre	1967	油彩、カンヴァス	114×195	S
64		ベルネイ	Bernay	1975	油彩、カンヴァス	89×130	S
65		ラ・バームのテラス	La terrasse de La Baume	1988	油彩、カンヴァス	114×195	S
66	前期	ひまわり	Les tournesols	1988	油彩、カンヴァス	114×146	S
67	後期	楽器	Instruments de musique	1988	油彩、カンヴァス	114×146	S

ベルナール・ビュフェ年譜

1928年	7月10日、パリに生まれる。
1944年（16歳）	国立美術学校の入学試験に入学し、1月からユージェーヌ・ナルボンヌ教室で学ぶ。
1945年（17歳）	アトリエ作品賞受賞。母ブランシュ死去。 美術学校を退学し、パティニョール街のアパルトマンで制作に取り組む。
1946年（18歳）	サロン・デ・モワン・ド・トランタン（30歳以下展）に初めて《自画像》を出品。
1947年（19歳）	アンデパンダン展に出品。サロン・ドートンヌに《肘をつく男》を出品し、注目され始める。 カルチエ＝ラタンの書店アンプレッションダールで最初の個展を開催。
1948年（20歳）	6月、批評家賞を受賞。ドライポイントを始める。
1949年（21歳）	2月、ドルーアン＝ダヴィッド画廊での個展が初めて開催される。この個展は毎年開催されることになる。 この頃から世界各地の画廊で展覧会が開催されるようになる。
1950年（22歳）	プロヴァンスに滞在し、小説家ジャン・ジオノや詩人ジャン・コクトーと親交を深める。
1952年（24歳）	リトグラフを始める。
1953年（25歳）	第2回日本国際美術展に《化粧する女》を出品。 日本で初の作品発表となる。
1955年（27歳）	『コネッサンス・デ・ザール』誌が企画した「戦後の画家10傑」の1位に選ばれる。
1956年（28歳）	テーマ展「サーカス」
1958年（30歳）	アナベル（シュウォーブ・ド・リュール）と結婚。
1959年（31歳）	テーマ展「ニューヨーク」 神奈川県立近代美術館で日本最初のビュフェ展「ビュッフェ展 デッサン・版画」が開催される。
1963年（35歳）	4-6月、日本初の大規模な回顧展「ビュッフェ展:その芸術の全貌」が東京の国立近代美術館と 国立近代美術館京都分館で開催される。
1965年（37歳）	テーマ展「皮を剥がれた人体(エコルシェ)」
1967年（38歳）	テーマ展「闘牛」
1971年（43歳）	テーマ展「狂女」
1973年（45歳）	11月25日、静岡県長泉町にベルナール・ビュフェ美術館開館。
1974年（46歳）	芸術アカデミー絵画部門の会員に推挙され、翌年受理される。
1977年（49歳）	テーマ展「ダンテ地獄篇」
1980年（52歳）	ベルナール・ビュフェ美術館の招待により初来日、関西方面へ旅行する。
1981年（53歳）	テーマ展「日本」 『日本への旅』（文：アナベル・ビュフェ）のために24点のリトグラフを制作。
1987年（59歳）	「ベルナール・ビュッフェ展」が東京、静岡、広島、愛知、大阪、茨城、岩手、福岡の日本の8カ所を巡回。 5月、巡回展開催にあたり来日。
1988年（60歳）	テーマ展「相撲と歌舞伎」「静物」
1990年（62歳）	5月、5度目の来日。大阪梅田の「阪急三番街」のオープニングセレモニーに出席。
1991年（63歳）	ロシアのプーシキン美術館とエルミタージュ美術館で回顧展。
1993年（65歳）	レジオン・ドヌール勲章のオフィシエの称号を受ける。
1995年（67歳）	4-11月、東京、京都、奈良、秋田、北海道（函館、帯広）の全国6カ所を巡回する回顧展開催。 展覧会開催にあたり来日。
1996年（68歳）	5月20日、ベルナール・ビュフェ美術館に版画館が増設される。 ビュフェ夫妻は落成祝賀に臨席。ビュフェの来館は7回目、これが最後の来館となる。
1997年（69歳）	パーキンソン病を発症する。
1999年（71歳）	パーキンソン病が悪化し、6月末に筆を絶つ。10月4日、トゥルトールの自宅にて逝去。
2000年	テーマ展「死」 8月-2001年12月、「ビュフェ追悼展」が神奈川、大阪、山梨、東京、愛知、福岡を巡回。